

こどもが自らの学びを実感できる授業づくり

和歌山市立雑賀小学校では、「よりよい自分と社会を創造するこどもの育成」を研究主題とし、社会科、生活科、総合的な学習の時間の研究を推進しています。

各教員は、「こどもが自らの学びを実感できる」を大切に、「人・もの・こと」との出会いや体験、地域教材を生かして、独自性を発揮した教育活動を行っています。その中で、こどもが「自分ごと」として本気で取り組む真摯な学びを目指しています。



「すごいぞ和歌山！～発見・発信・国際交流～」

大阪・関西万博見学の機会を社会科及び総合的な学習の時間と関連付けて、「和歌山の魅力を伝えようー大阪・関西万博をきっかけとしてー」という学習テーマを設定しました。社会科「世界のなかの日本とわたしたち」、大阪・関西万博見学、和歌山城で外国人観光客に英語で行ったインタビュー等をとおして、世界の中の日本について学びました。その後、こどもから「もっと和歌山の魅力を伝えたい」という声があがりました。そこから、和歌山の魅力について、さらに自分たちで調べて伝えようという学習を進めています。



「自ら発見・自ら解決」

社会科「くらしをささえる水」では、「自分たちが使っている水はどこから来ているのか」という疑問をもとに、紀の川源流地である奈良県川上村へ見学に行きました。その後「自分たちが使っている水は最終的にどのようなのか」という問いにつながり、海に視点が向きました。近くの海へ行った際、漂着物を見て、「どうにかできないか」という問題意識をもちました。この問題意識をもとに、総合的な学習の時間「海ってええな～すばらsea～」という学習テーマを設定し、環境問題について考え始めました。きれいな海を守るために自分たちで漂着物を集め、それを加工して作品を作り、発信しました。

今後も、雑賀小学校では、教室での学習を大切にしながらも、最適なタイミングで地域に出かけることで、意欲的に活動し社会の様々な事象を自分ごととして捉え、学習していきます。

輝く！ 紀の国の先生

和歌山市立西脇中学校 理科 辻岡 宥作先生
今回の「輝く！紀の国の先生」は、和歌山市立西脇中学校の辻岡宥作先生をご紹介します。中学時代の恩師に憧れて教員を目指し、今年で13年目になります。生徒の学びを深めるために、日々、新しいことを取り入れて授業を行う辻岡先生の思いを、インタビューを通してお伝えします。



Q 教員のやりがい・魅力は？

卒業式で、入学時から見てきた生徒の成長を感じたときです。また、卒業生が学校に会いに来て、近況を報告してくれたり、相談してくれたりすることがあります。生徒の人生に関わることができる素晴らしい仕事だと思っています。

Q 先生にとって良い授業とは？

生徒にとってシンプルでわかりやすい授業です。授業後に、何を学んだかが自分で説明できるようになってもらいたいです。

Q 普段の授業で工夫していることは？

最も意識しているのは、授業の流れがわかるようなワークシートを使って授業をシンプルにすることです。また、最近ではICTを活用して、資料に実験動画のリンクを貼ったり、結果やまとめ、授業の振り返りなどを生徒が一人一台端末で入力したりするような工夫をしています。このように学習方法等の選択肢を増やすことで生徒が自分に合った方法で学習を進められるよう、試行錯誤しています。



Q 授業づくりの原点は？

令和元年度に、研修で秋田県の中学校に1週間行かせて頂きました。そちらの先生に授業の組み方、道筋の立て方などを教えてもらったことが、現在の授業づくりにつながっています。

Q 今後取り組んでいきたいことは？

研究授業に積極的に参加していきたいです。自分の授業を見てもらって意見やアドバイスをもらったり、他の先生の授業を見せてもらって新たな視点を得たりする機会を増やしていきたいです。

新たなことに挑戦する経験が自分を成長させ、自分の財産になったという辻岡先生。生徒にとってシンプルで分かりやすい授業を目指し、挑戦を続ける先生の思いをご紹介します！

TOPICS 補充講師登録のお知らせ

和歌山県では、講師登録者を募集しています。学校で勤務してみたい方はぜひ登録ください。

- 募集区分 / 常勤講師、非常勤講師
- 応募資格 / それぞれに必要な資格・免許を有する方
- 応募書類配布 / 和歌山県教育委員会 教職員課のWEBサイト



- 小中学校希望
 - 紀北(有田地方以北) → 紀北教育事務所
 - 紀南(日高地方以南) → 紀南教育事務所
- 県立高校・特別支援学校希望(全県) → 教職員課

申し込みは上記各所まで応募書類を郵送もしくは持参のこと。

きのくに教育めぐり

岩出市教育委員会

岩出市の教育について

岩出市は和歌山県内でも市の面積が狭いながら(38.51km²)、県都和歌山市、関西国際空港に近い立地条件から民間主導の宅地開発による人口増加を背景に県内有数の規模を誇る児童生徒数(令和7年5月1日現在小学校6校2,763人、中学校2校1,294人)となっています。市の進めるまちづくりとして喫緊の課題である人口減少に歯止めをかける一施策として若者や女性を含めて、全ての人が地方に住み続けられるように質の高い教育を提供すべく「令和の日本型学校教育」の充実に向け取り組んでいます。

岩出市教育委員会の令和7年度 主な取組

1 個別最適な学びの実践と学習意欲の向上による学力向上

本市では、全ての児童生徒の可能性を引き出す新しい学びの実現に取り組んでいます。中央小学校と岩出第二中学校が、令和7年度文部科学省の「リーディングDXスクール事業」の指定校として採択され、全国に先駆けたモデル実践に取り組んでいます。
● 端末を活用した新しい学びの実践
一人一台端末(Google端末)を日常的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる授業を展開しています。

<学習意欲の向上>

児童生徒が自ら課題を設定し、情報を収集・整理・分析し、まとめ・表現する「探究サイクル」を回すことや端末を活用して、自主的な学びを促すことで、主体的に学ぶ意欲を高めています。



<「複線型授業」への挑戦>

一人一人の進度や興味・関心、理解度に応じた学習活動を提供し、多様な学びのルートが用意された「複線型授業」の実現を目指しています。これにより、誰一人取り残すことなく、全ての児童生徒がそれぞれのペースで深く学ぶことを可能にしています。



本市の教育DX、始動！個性に合わせた学びで意欲と学力を育む。

2 根来の子守唄や地域の文化資源を活用したふるさと意識の醸成

放課後こども教室で根来の子守唄を学んだ小学生が、卒業してもその活動を継続していくため結成された岩出市内小・中学生のユニット「根来の子守唄つくし」。
岩出市の文化資源である根来の子守唄を未来に継承していくため、興味や関心を持つ市民の輪を広げ、ふるさとの文化を学び発信できる人材の育成を目指しています。



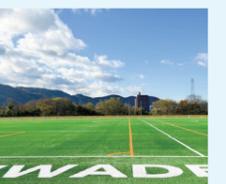
大阪・関西万博でのイベントの様子

3 スポーツ施設的环境改善とスポーツイベントの充実

本市では、市民の皆さんが気軽に、そして快適にスポーツを楽しめるよう、スポーツ振興くじ助成金(toto)を活用し、スポーツ施設の環境整備に取り組んでいます。また、岩出市民運動会や岩出マラソン大会などのイベントを通じて、世代を超えた交流の輪が広がり、スポーツを身近に感じられるまちづくりを進めています。



岩出マラソン大会の様子



助成金の活用により人工芝を整備した大宮緑地総合運動公園

TOPICS

岩出市教育支援センター「フレンド」給食提供開始

こどもたちの笑顔のため、令和6年10月から教育支援センターで給食の提供が始まりました。この取組は、和歌山県の事業を活用しています。栄養バランスのとれた温かい食事を通し、こどもたちが安心して過ごせる居場所を提供しています。



教育長挨拶

岩出市教育委員会 教育長 津田 浩伸

こどもたちが根来の文化に触れながら確かな学力を身につけ、自らの未来を切りひらく力を育むとともに、高齢者を含む全ての市民が地域の中で新しい知識や教養を深め、生きがいを感じられる環境整備を推進します。学校教育での「個別最適な学び」による学力向上と、スポーツ・文化を通じた生涯学習の機会充実が、豊かな人づくりとなり、活力あるまちの未来へと繋がります。市民一人一人の「学びたい」という意欲を最大限に支援してまいります。